

カンボジアのアンコール寺院に彫られている石の彫刻(800年前)には、動物や人間の日常生活の一場面が描かれています。

柱の下から3番目は、今は、目にする事のない動物が彫られています。その姿は、誰が見てもステゴサウルスだと分かるでしょう。



一般にこの恐竜は人類が登場するよりはるか以前、今から数千万年前に絶滅したとされています。

しかし実際は、聖書に書かれている通り、恐竜はかつて人間のすぐそばで生きていたのでしょうか(創世記1:24-28、6:19-20、8:15-19、ヨブ記40:15-19)。

そういうことなら、古代のアンコールの人々はステゴサウルスを見ていたはずですよ。

◀ アンコールワットの柱

円筒印章は、メソポタミア(紀元前1500年以上前)で、個人のサインとして文書や荷物などに広く使われていました。

下の印章には、4本足で立ち、長い首と長い尾を持つ不思議な生き物が描かれています。これは、三畳紀とされる岩石層から化石が見つかった爬虫類、タニストロフィウスにそっくりです。

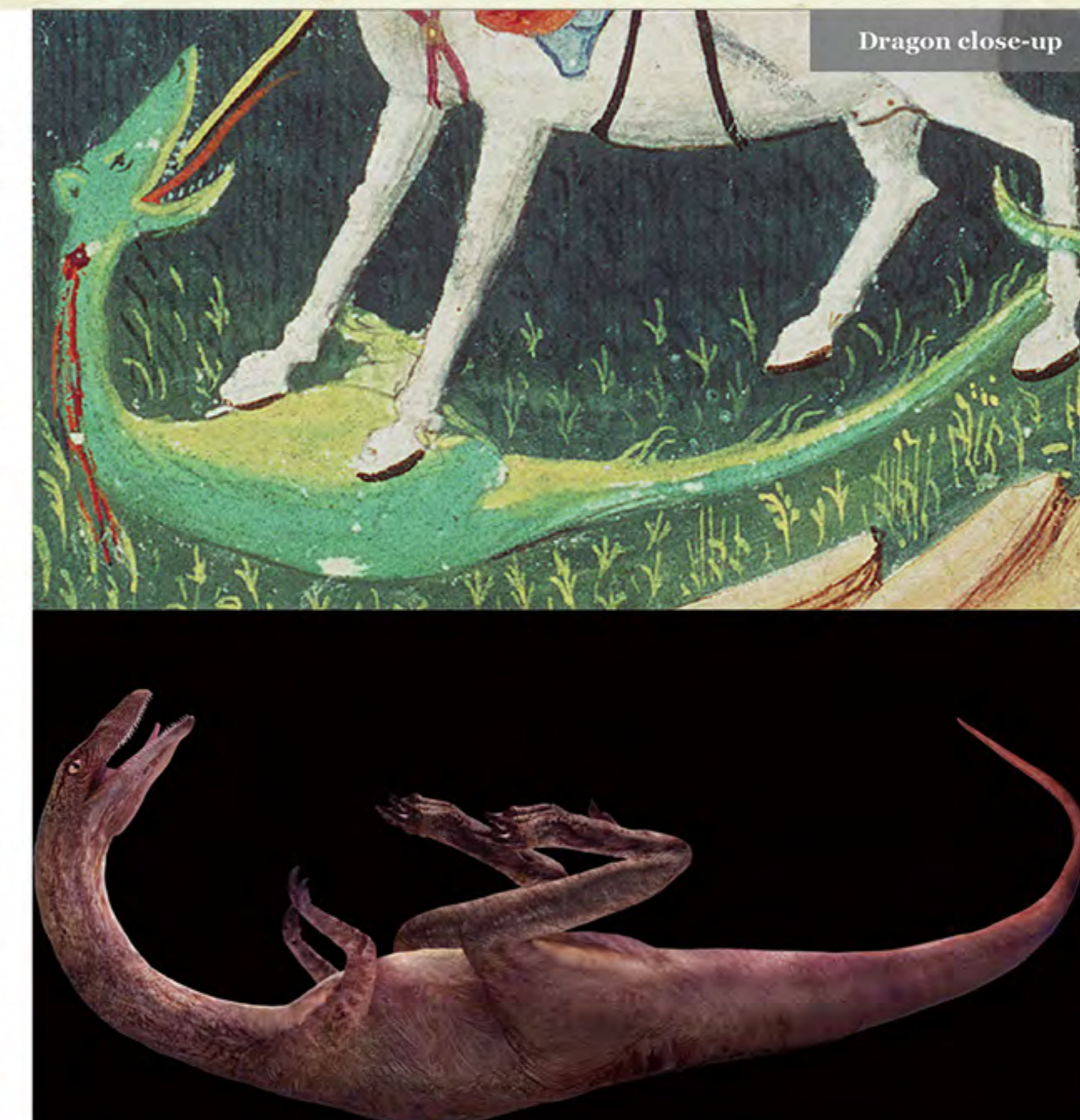
■円筒印章



■タニストロフィウス

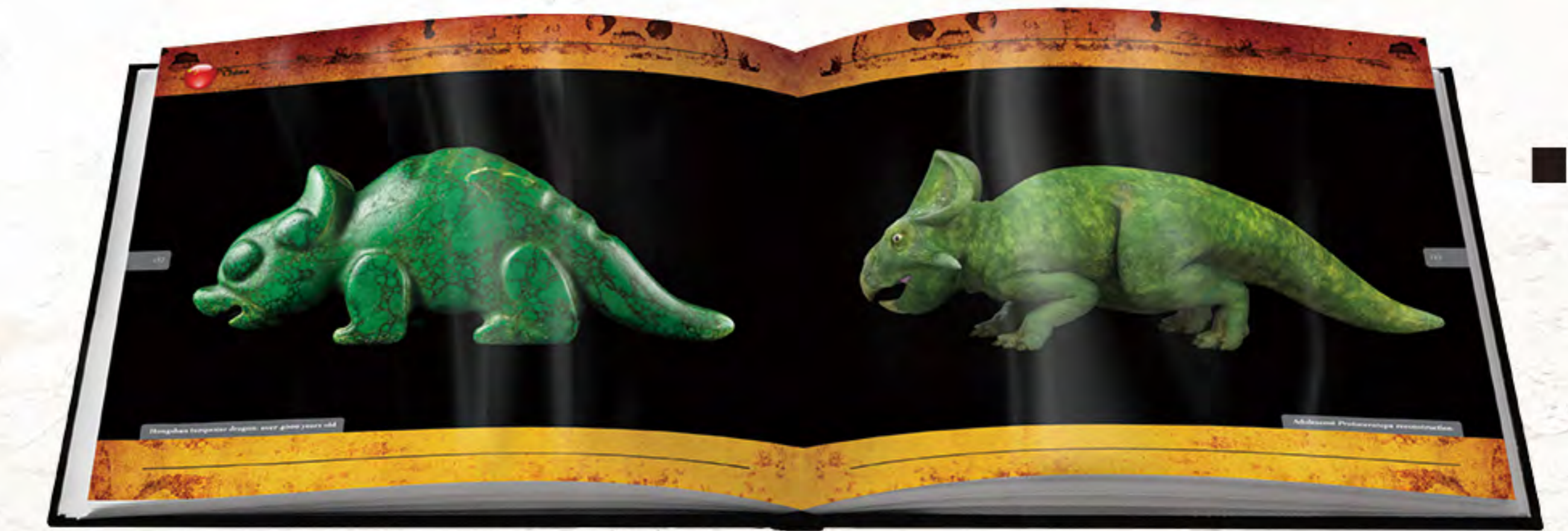


オランダの「時祷書」(西暦1440年頃)には、ドラゴンと戦うセント・ジョージの姿が描かれています。これは、恐竜が当時、人間の身近なところにいたことをうかがわせます。またドラゴンの大きさや形を、馬と比べながら描写しています。それは化石から姿を復元された三畳紀のコエロフィシス・バウリによく似ています。



© United Secrets of Planet Earth: Dire Dragons

緑色の竜(右上画像・左)の装飾品は、中国の紅山文化時代(4千年以上前)のもので、中国では様々な種類の竜が描かれています。それらは復元された恐竜の姿に驚くほどよく似ています。この竜も、今、生きているどんな動物にも似ていませんが、一本のつのを持つセントロサウルス(右)にそっくりです。



■中国の竜の装飾品(4千年以上前)

© United Secrets of Planet Earth: Dire Dragons

フランス・ブロワ城の「フランソワ1世の翼」でも、数多くのドラゴンの描写を見ることができます。1500年代の見事なタペストリー(つづれ織り)に描かれたドラゴン(下・左)は、ハドロサウルス科の恐竜(マイアサウラ・ピーブルゾルムなど)の子供(復元、下・右)にそっくりです。大きな後ろ足、鼻の穴、皮膚の模様、下顎、耳の位置など比べてみてください。



© United Secrets of Planet Earth: Dire Dragons

1995年、メアリー・シュバイツァーは恐竜の骨から赤血球を発見し、さらに2005年には別の骨から赤血球(下の写真)と柔軟で伸縮性のある軟組織を発見しました。放射性炭素年代測定法で調べると、これらの恐竜の化石はわずか2~3千年前のものであることが分かりました。これは、恐竜が何千万~何億年も前の生き物ではないということを教えてくれる衝撃的な証拠です。

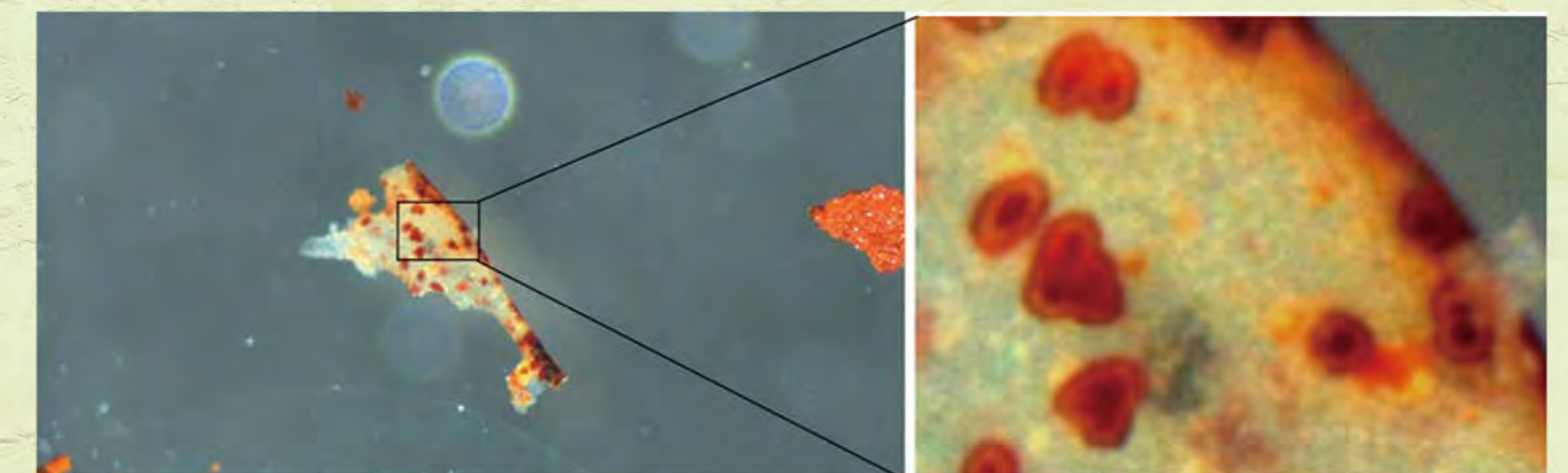


Figure from Soft-Tissue Vessels and Cellular Preservation in Tyrannosaurus rex. Mary H. Schweitzer, Jennifer L. Wittmeyer, John R. Horner and Jan K. Toporski. DOI: 10.1126/science.1108397 Science 307 (5717), 1952-1955. Reprinted with permission from AAAS.